

①ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。

②師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。③のちの

矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。④毎度ただ得失な

く、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。⑤わづかに二つの矢、師

の前にて一つをおろかにせんと思はんや。⑥懈怠の心、自ら知ら

ずといへども、師これを知る。⑦この戒め、万事にわたるべし。

⑧道を学する人、夕べには朝あらんことを思ひ、朝には夕べあら

んことを思ひて、重ねてねんごろに修せんことを期す。⑨いはんや

一刹那のうちにおいて、懈怠の心あることを知らんや。⑩なんぞ、

ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだかたき。